

福井大学 2011 地理 B 分析

【全体講評】

大問2つから構成されています。第1問が地形図を用いた問題、第2問が統計を用いた問題ということで、思考力や分析能力が深く求められることとなります。単なる暗記のような勉強では解答はおぼつかないでしょう。

記号選択問題は見られず、すべてが記述式となっています。地理用語や地名・国名のような単語を答える問題と、文章を書く論述問題はおおよそ4:6ぐらいのバランスで、一般的な大学の問題に比べて論述問題のウェイトが高くなっているようです。

単語問題の難易度は標準と思われる。こちらでしっかり得点を稼ぐことが必要でしょう。一方、論述問題は「解答しにくい」問題が多く、こちらの難易度は高くなっています。何をどのように書いて良いものか悩むものばかりで、論述問題で高得点を取るとは困難でしょう。逆に言えば、こちらで大差がつくことはありません。確実に標準問題をクリアし、そのうえで、論述問題でとりあえず部分点を取りに行くという姿勢で取り組めば充分でしょう。

【大問別講評】

第1問

問1、4が単語問題、問2、3が論述問題です。問1の縮尺を当問題は確実に得点できると思います。問2、3は先にも述べたように「難しい問題なので」、ここで高得点は期待できません。問5の単語問題でしっかり得点することが合否の分かれ道となります。「シラス」、「扇状地」、「城下町」、「洪水」、「防波堤」などの言葉を記述することが求められているのですが、おそらく最大のポイントは地形図から「防波堤」を読み取ることですね。決して難しいものではないのですが、特に示されている地形図が時代が古いものであるため、注意と慣れが必要となってきます。できるだけ多くの地形問題に取り組んでおくことが、実際の対策になるでしょう。

なお、問2については「起伏量」という言葉のいみが明確ではなく、解答しにくいでしょう。問3は集落立地や土地利用について述べるという形式のもので、いったい何をどのように書いたら良いのか悩むものです。筑波大学の入試問題にしばしば見られる形式なので、そちらで練習しておくとも良いかもしれません。ただし、完璧を求めたらキリがないので、あくまで部分点ねらいで。

第2問

中国地誌で、問1、6が単語問題、それ以外が論述です。単語問題は平易な問題なので、ここで確実に得点してください。「人民公社」や「ホンコン」「マカオ」などが問われており、特別な学習が必要な部分部分ではありません。ただし直轄市を4つとも答えなくてはならないので、ここがちょっと辛いところかもしれません。しかし、決して特殊な問題とも思いませんので、やはり基礎的な学習が非常に重要となってきます。

それに対して、論述問題は非常に厳しいです。第1問とも共通するのですが、問われている内容が難しいのではなく、何を書いて良いのか迷うものばかりで、完璧な解答は望むべくもありません。おそらく、こういう内容を書くことが求められているのだと見当をつけて、部分点を狙いに行ってください。キーワードが意識できていれば何とかかなると思います。例えば、問4の(1)では、日本企業が中国に進出している理由が尋ねられているのですが、確実に「安価で豊富な労働力」というキーワードを入れて文章を組み立てることが大切です。同様に問4(2)でも、中国に工場が進出することによって生じた日本の変化ということで、「産業の空洞化」という言葉を意識してください。知識のレベルとしては、教科書から逸脱したものではありません。手堅くキーワードを抑えることを意識しましょう。